

## [研究ノート]

# 流通科学部「総合演習Ⅱ」におけるピア・サポートの試み

## Case Study of Peer Support on Basic Seminar II

中村学園大学 流通科学部

明 神 実 枝

### 第1節 はじめに

本研究ノートの目的は、「教室で学んだマーケティング理論を、現場で実践する」<sup>1)</sup> アクティブ・ラーニングである「総合演習Ⅱ」の取り組みを紹介し、特に今年度のピア・サポートの試みの意義と課題を報告することである。

総合演習Ⅱ<sup>2)</sup>は、味の明太子ふくや様（以下、敬称略）に全面的にご協力いただいて、学生が探索的調査、コンセプト・デザイン、試作品作成などを行って企画を作成し、それを企業様に提案する実践志向の授業である。

この授業の中で今年度、ピア・サポートの導入を試みた。きっかけは前年度の受講生からの提案である。毎年、総合演習Ⅱでは前年度の受講生（3年生）が今年度の受講生（2年生）に助言する機会を設けていたが、企画の中間発表会で質問やコメントをしてもらうなど、限られたものだった。しかしながら、前年度の受講生から「それだけでは不十分」などの声があった。そこで、それらの学生に学生運営委員として授業サポートに入ってもらった。本研究ノートではその活動を報告し、今後の実践教育の改善に役立てたい。

本稿は以下の構成をとる。まず、総合演習Ⅱの取り組みを紹介し（第2節）、今年度のピア・サポートの試みについて報告し（第3節）、最後にその意義と課題を整理する（第4節）。

### 第2節 総合演習Ⅱの概要

「総合演習Ⅱ」は、マーケティングの理論と実践を学ぶ科目であり<sup>3)</sup>、学習過程を2つに分けている。まず、学生は3人1組のチームを編成し、チーム内で部門担当者（製造担当、店舗営業担当、ダイレクトマーケティング（DM）担当）を決めて部門毎に調査に出向き、企業の事業活動を理解する。次に、それらの知見を持ち寄って、チーム毎に企画を検討する。2つの学習過程の目的とスケジュールは以下の通りである。（図1、表1参照）

#### （1）部門別調査：社員の視点から事業を理解し、組織で力を発揮する

企画を作成する際に、まず社員の立場に立って考えることが重要である。同じ企業で働いていても、製造部門と営業部門では役割も能力も異なり、異なる役割や能力を持った同士が連携

1 「教室で学んだ理論を、現場で実践する」学習形式はアクティブラーニング、PBL（project based learning）などと呼ばれる。マーケティング分野では、消費者の立場に寄り添いつつ探索的調査を行って問題を発見し、その問題を解決するコンセプトをデザインし、試作品作成や検証的調査により実現可能な商品企画を作成していくプロジェクトが、多くの大学やゼミによって取り組まれている。

2 中村学園大学流通科学部において2011年より実施されている演習形式の選択科目で、2年生を対象としている。平成28年度の受講者数は35名であった。

3 理論面については、『1からのマーケティング・デザイン』（石井淳蔵他編著）と『1からの商品企画』（西川英彦・廣田章光編著）を基に作成した資料を準備しており、毎回の授業で少しずつ学びながら実践する形式をとっている。主に、「顧客創造」概念、商品企画のプロセス（探索的調査、コンセプト・デザイン、検証的調査、企画作成）の理解を目標としている。

図 1 : 演習内容とチーム編成のイメージ図

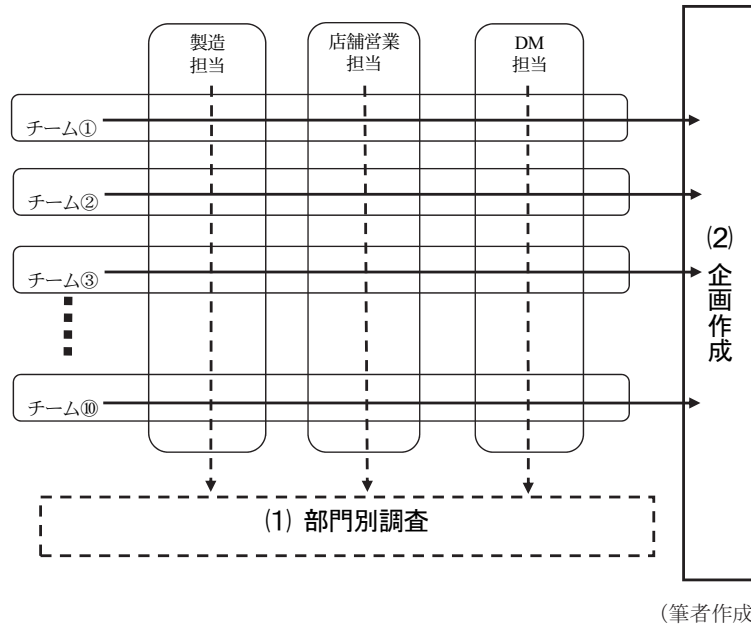


表 1 : 総合演習Ⅱのスケジュール

回数	授業内容	学生運営委員の参加
1回	授業概要説明、自己紹介、チーム分け	
(1) 社員の視点から、事業を理解する		
2回	ふくや企業分析	○
3回	「榎ふくや概要」(ご講演)	○
4回	グループワーク① 調査、アイデア検討	
5回	ふくや訪問：店舗営業課／ダイレクト・マーケティング課	○
6回	ふくや訪問：製造課(ふくやフーズファクトリー)	○
(2) 消費者・社会の視点から、企画を作成する		
7回	グループワーク② コンセプト検討	
8回	中間発表会(先輩による審査)	○
9回	グループワーク③ コンセプト検討・試作品製作	
10回	グループワーク③ コンセプト検討・試作品製作	
11回	グループワーク④ 企画まとめ	○
12回	グループワーク④ 企画まとめ	○
13回	最終発表会(先輩による審査)、プレゼン練習	○
14回	企画発表会(ふくや様による審査)	○
15回	反省会	

(筆者作成)

して力を発揮するには工夫が必要である。したがって、各部門にどのような役割や能力があるのか、企業全体の活動（事業）としてどのように力が発揮されているかを理解することが重要である。その上で、どのように連携し力を発揮していくかを考え実践すること、これが第1の目的である。

この目的のために、各チームで部門担当者を決め、担当部門ごとに部門を訪問して調査し、事業内容や組織を理解する。

## （2）企画作成：消費者・社会の視点から企画を作成する

第2の目的は、社員の立場になって事業内容を理解した上で、企画を作成・提案することである。その際に重要になってくるのは、消費者・社会の視点から企画を作成することである。言い換えれば、消費者や社会のために何ができるかを考え、「あったらいいな」と思うアイデアをカタチにすることである。テーマは「ふくやの明太子を同世代に売るにはどのようなアプローチが考えられるか」である。

## 第3節 学生運営委員（学生スタッフ）によるピア・サポートの試み

第1節でも説明したように、この授業を実施するにあたって、前年度の受講生の声をきっかけに、今年度はピア・サポートの導入を試みた。毎年、前年度の受講生（3年生）が今年度の受講生（2年生）に助言する機会を設けていたが、企画の中間発表会で質問やコメントをしてもらうなど限られたものであり、前年度の受講生から「それだけでは不十分」、「もっと先輩にサポートしてもらいたかった」、「自分達にできることがあれば何かしたい」という声があった。

そこで、それらの学生に学生運営委員として、授業サポートに入ってもらうことにした。学生運営委員は前年度の経験から課題を発見し、解決し、それを授業の仕組みに実現していくという課題に取り組み、教員はそれらを実現する場

のデザインに徹する。このような役割分担で行った。学生運営委員が、どのような役割で、どのような内容までサポートに入るか、そうしたことも学生らとの話し合いで決めて行った。

### 学生運営委員の活動目的

学生運営委員会の目的は、第1に、総合演習Ⅱを経験した先輩がその経験を活かし、後輩の受講生が社会で求められる能力を身につけられるよう支援することであり、第2に、後輩の指導にあたることを通して、自らの指導者としての能力向上を図ることとした。

学生運営委員の適任者は、前年度の総合演習Ⅱの受講者で、自らの経験を活かして後輩の指導にあたることのできる者、あるいはそれ同等の経験を活かして総合演習Ⅱの改善に貢献できる者である。また、企業様のご協力によって成り立っており、学外の方々と直接お話ししたり打ち合わせをしたりする機会があるため、社会人としてのマナーが求められる。

なお、学生運営委員としての活動は「自ら現場で活動し、課題を発見・分析し、解決法を探る活動」に該当することから、こうした能力の習得を目標とする科目「フィールドワーク」（流通科学部の選択科目、1～4年対象）を履修し、単位認定につなげることを勧めた。これにより、責任ある取り組みを促した。

平成28年度は4名の学生が学生運営委員として授業サポートを行った。

### 学生運営委員の活動スケジュール概要

学生運営委員の活動は、授業開始前の準備に始まり、授業の実施・サポート、そして授業後の振り返りと活動記録の作成までであり、約半年に及んだ。

- ・ 2月 授業内容の検討、企業様との打合せ
- ・ 3月 具体的な授業運営の計画・準備
- ・ 4～6月 授業の運営・サポート
- ・ 7月 振り返り・活動記録の作成

## 学生運営委員の活動概要

学生運営委員の活動内容は、主に3つの段階、①問題発見、②問題解決方法の検討、③それを実現する仕組みづくり、に分けられる。それぞれの活動概要は以下の通りである。

### ①課題の発見・分析と改善案の検討

#### 2月8日(月) 17～19時 第1回打合せ

- ・学生運営委員の役割確認と課題整理
- ・整理した課題：
  - ▶チーム→段階毎にチームを分けず、最初のチームで最後まで活動すべき。
  - ▶企業活動を理解するのが難しい→企業理解を促進する授業構成にすべき。
  - ▶DM部門の調査が難しい→課題の提示方法を変えた方が良い。
  - ▶授業スケジュール→発表会の時期を後学期開始前ではなく、前学期内にすべき。
  - ▶企画書の様式→分かりにくい。ポスターと企画書の書き方を最初に説明すべき。

#### 3月7日(月) 13～17時 第2回打合せ

- ・整理した課題をもとに、改善案の検討
- ・学生運営委員が運営する授業日と内容を以下の通り決定

授業日	授業内容	学生運営委員の活動内容
4月13日(水)	ふくや企業分析	ふくや調査のサポート
4月20日(水)	ふくやご講演	講演会運営(司会進行) (講演者インタビュー+ご講演)
5月11日(水)	ふくや訪問	訪問に同行、今後のグループワーク支援
6月1日(水)	中間発表会	発表の審査・講評
6月22日(水)	最終発表会	発表の審査・講評
6月29日(水)	企画発表会	発表会の運営、発表の審査・講評

#### 3月8日(火) 10～12時 企業打ち合わせ

- ・授業案の提案
- ・企業様のご意見を反映して再提案することに

#### 3月17日(火) 13～17時 第3回打合せ

- ・企業様との打合せを経て、提案内容を再検討
- ・メールにて再検討した内容を提案し、承諾いただいた(下線部が再検討し提案した内容)

授業日	授業内容	学生運営委員の活動内容
4月13日(水)	ふくやクイズ大会	ふくやクイズ大会の実施(司会進行、得点管理など)
4月20日(水)	ふくやご講演	講演会運営(司会進行、後半のアイデアプレゼンの司会) (講演者インタビュー+ご講演+受講生によるアイデア1分プレゼン)
5月11日(水)	ふくや訪問	訪問に同行、今後のグループワーク支援
6月1日(水)	中間発表会	発表の審査・講評
6月22日(水)	最終発表会	発表の審査・講評
6月29日(水)	企画発表会	発表会の運営、発表の審査・講評

### ②事前準備1(第2回、第3回に向けて)

#### 3月25日(金) 12時30分～14時30分 第4回打合せ

- ・具体的な授業運営の企画・準備
- ・ワークブックの構成検討、一部原稿作成(4-7頁)

#### 4月7日(木) 11時30分～13時 第5回打合せ

- ・授業前の段取り：「第2回ふくやクイズ大会」、「第3回ふくやご講演」に向けて
- ・授業計画(当日の流れ)の作成、教室・セッティングの確認

#### 4月12日(火) 16時30分～17時30分 第6回打合せ

- ・必要備品の作成(名札、くじなど)

### ③事前準備2(第8回、第13回、第14回に向けて)

#### 4月21日(木) 11時30分～13時 第7回打合せ

- ・「第2回ふくやクイズ大会」、「第3回ふくやご講演」の振り返り
- ・整理した課題：

- ▶机のセッティングに時間がかかった。
- ▶アイデア1分プレゼンのやり方(発表位置、画用紙の見せ方、挨拶など)を学生に伝えておくべきだった。

- ・「第8回中間発表会」「第13回最終発表会」に向けて、発表会の形式、審査基準の確認

#### 6月9日(木) 11時30分～13時 第8回打合せ

- ・「第14回企画発表会」に向けて、運営の準備、役割分担の検討

・審査員誘導係、司会進行係に分かれて担当することに

・それぞれ担当の運営内容の段取りをする

6月27日（月）12時20分～13時 第9回打合せ

・それぞれ担当の段取りをする

▶審査員誘導係：審査員への事前説明内容の作成

▶司会進行係：司会原稿の作成

6月28日（火）12時20分～13時 第10回打合せ

・それぞれ担当の段取り・原稿の確認・修正

6月29日（水）12時20分～13時 第11回打合せ

・それぞれ担当の段取り・原稿の最終確認

7月7日（木）10時45分～11時30分 第12回打合せ

・全体の振り返り・活動記録（報告書）の作成

#### 第4節 おわりに

以上、本稿では、総合演習Ⅱの取り組みの中でも、今年度のピア・サポート導入の試みについて報告した。ここでは、その意義と課題について整理しておきたい。

まず、ピア・サポート導入の意義は、2点に

整理できる。第1に、受講生が先輩のサポートにより、企業理解を深めることができ、また企画作成のプロセスや企画アイデアについてもアドバイスを得ることができたという点である。

第2に、学生運営委員にとって、授業を受ける側ではなく、授業を行う側に立つという経験をすることによって、ファシリテーション力やリーダーシップ力など、社会で求められる能力の習得に従事できたという点である。

今後の課題は、ピア・サポートの内容が受講生の成果にどのように関連するかを明らかにすることである。今年度の受講生はピア・サポートにより完成度の高い企画を作成するに至ったが、企画内容の新規性や独自性を高めたかについては明らかではない。今後の課題として、ピア・サポートの内容や程度などの質を検討することが挙げられる。

#### 参考文献

- 石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著（2016）『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎。  
西川英彦・廣田章光編著（2012）『1からの商品企画』碩学舎。